

<定例記者会見>

平成 28 年 6 月 30 日 11 時～

## 平成 28 年 6 月月例記者会見

### 質疑応答

記者 ふるさと納税のレインボーラムネは 3 つのコースがあるが、一人が寄付する場合の上限の数はあるのか。寄付額によって複数のコースを組み合わせることは可能か。レインボーラムネは何箱用意されているか。

市 レインボーラムネだけは数に限りがあり、1 週間ぐらいでなくなることが予想されるので、例外で、一人一セットでお願いしたいと考えています。3200 セットは用意しています。

記者 大和牛とか大和肉鶏は生駒産か。何万円以上か。

市 精肉店が生駒市内の業者で、生駒産ではありません。2 万 5 千円、3 万円、4 万円、5 万円のコースがあります。

記者 マンホールは実物大か。数に上限はあるのか。

市 実物大で直径 60 センチです。実物は 40kg あるが、重すぎるので薄く 15kg に加工しています。取っ手付きに加工しているのは調べた限りでは全国で生駒市だけです。汚水と雨水の 2 種類のデザインあり、受注生産なので上限数はございません。

記者 人間ドックも珍しいのではないか。

市 珍しいですが、全国初ではありません。

記者 今までもレインボーラムネで生駒市としてはかなり寄付があったかと思うが、さらに品目を増やした理由はどういうところか。

市 レインボーラムネは非常にありがたい大きな原動力にはなりましたが、レインボーラムネは数量が限られていることもあり、それ以外のものも生駒市内の経済振興の観点から取り上げていくことが必要だということが 1 つです。もう 1 つは、物品以外のサービスとか体験型の記念品を取り入れることで、本来のふるさと納税の趣旨に適応した幅広いものになるのではないかということからです。

記者 生駒市では市民が市内に寄付する額より、他の自治体に寄付する額が上回ってるということはないか。

市 平成 27 年度では、収支が 4975 万 1546 円のプラスになっています。今年度の予算額を超えることを目標に寄付を募りたいと考えております。

記者 小学校のトイレの洋式化は何%になっているか。

市 すでに 2 ヶ所は実施しています。今年度、予定していたのは 3 ヶ所だと思いますが、元々予算で予定した場所が補助金の関係もあり、その辺りは寄附とかで応援していただきたいですが、教育総務課に確認してください。

記者 記念品の写真は提供可能か。

市 明日、ふるさとチョイスというホームページを更新します。カタログは作成中で、7 月中頃に出来る予定です。リクエストがあれば物品の写真は提供できます。

記者 シルバー人材センターの実家支援サービスは県内初だと思いますが、全国的には実施しているか。

市 全国的には何ヶ所か実施されています。奈良県初ですが、関西でも大阪府・兵庫県で何ヶ所か実施しているところがあります。

記者 奈良市では交流都市や姉妹都市の品も入れているが、生駒市は市内のものにしているのか。

市 基本的には市内のものでサービスをしていきたいと考えています。近鉄百貨店とのコラボや、大和牛などは市内の精肉店と協力し、基本はまず市内のもの、市内の店でスタートしていきたいと考えています。

記者 市民吹奏楽団のバンドの募集人数は何人か。

市 ママさんブラス、市民バンドそれぞれ 50～60 人程度です。

記者 発足準備会は何をするのか、正式発足は何をもって発足か、正式発足の 11 月から 12 月には、お披露目会のような舞台をなどは用意されているか。

市 発足準備は、団員の協議で会費など会則を決め、運営を進めていただくことを考えています。練習も合わせてしていく予定です。今の時点では、どれくらい集まるか、習熟できるか、練習できるかによって、発足の記念コンサート開催も考えられますが、今のところ未定です。

記者 いこママブラスは発展的な解体をするのか。市民吹奏楽団には、改めて入会手続が必要か。

市 いこママブラスはそのまま存続はされると思いますが、構成メンバーとしては重なる方もでてくると思います。市民吹奏楽団には、改めて入会手続が必要です。

記者 ママさんブラスは、子育てしていない女性はだめか。仮称ということは名前を変える可能性もあるか。

市 男性も入っていただけます。名称は、集まっていたいただいた团员さんの色々なご意見をもとに、決定していただくものと考えています。オーディションはせず、本人の意志により受け入れることとなりますが、人数が増えすぎれば、別にグループを作ったり、部のパートが増えすぎれば調整はしますが、なるべく受け入れていきたいと思っています。

記者 募集は 7 月 31 日までで集まりは 10 月からとなっているが、その間は何をするのか。

市 発足の準備にかかるような月会費や名称などの取り決めのための会則を、团员さんの合議制で決めていきます。練習もしていく予定です。

記者 7 月 31 日までに申し込んだ人、入団の意志のある人が発足前に練習に集まるのか。そのスケジュールで進める予定です。

記者 メンタルヘルスチェックシステム「こころの体温計」は初めてか。アプリケーションを職員さんがつくられたか。

市 既存のサイトにアクセスして、実施するものです。

記者 アズママは先日の交流会と同じか。  
市 基本的には同じで、子育てシェアの説明とママサポーターという子育てシェアのサポートやイベントのサポートの説明とサポーター募集の 2 点です。前は子育てシェアの説明が多かったと思いますが、今回はサポーター、支援する方の話もあるかと思っています。基本的には前の交流会の雰囲気と大きく変わらないかと思っています。

記者 これからは毎月開催されるのか。  
市 はい、頻繁に開催していきたいと考えています。

記者 ゴミの有料化に関する件ですが効果が出てきたという数字はあるが、実際に市民から意見は寄せられているか。

市 ゴミの量は減っているが、断続的に有料化に対するご意見はあります。自治会等の理解もあり、比較的スムーズに進んでいるというのが市の考えです。まだ、いただいているいろいろなご意見や課題もあるかもしれませんので、今回アンケートの実施や、自治会代表の方にも市民会議にも入っていただいて、意見を拾っていただく場にしたいと考えています。

記者 市民会議は何名で構成されるか。

市 準備会議に来ていただいている方が 15 人から 20 人くらいです。市民会議は会議のメンバーによる議論はもちろん、同時にそれぞれの方に役割分担して、自治会で説明をしてもらったり、生ごみ処理容器のキューロを作るワークショップを中心にやっていただいたりするなどをお願いしているところです。準備会議に入っている方が全員入るかどうかは分かりませんが、自治会や市民団体にいられて、子育てや高齢者関係などさまざまな活動をされている方で、ごみ減量市民会議に入っただけの方を 15 人から 20 人程度と考えております。

記者 ごみが減っている量は想定より多いか。

市 最後の目標が半減ということで、それに照らして言うとまだまだ不十分ではありますが、もともと 10～20%と言っていたので、そういう中では一定の効果はでていていると思います。一定の効果はでていますが、半減目標とかマニフェストの 25%削減目標に比べると有料化だけでは十分ではないので、今後のごみ減量市民会議の取組と生ごみ対策を組み合わせることで目標を目指していくというのが今のスタンスです。

記者 25%減は何年で達成か。

市 マニフェストなので 4 年間、30 年度までです。

記者 中途採用の採用人数は 6 人か。各募集枠で 1 人ずつで 6 人以上の採用か。

市 若干名ですので、面接をさせていただいて何人採用かを決めたいと思っています。必ずしも、募集枠から絶対 1 人採用するということではありません。

記者 年齢制限はあるか。

市 年齢制限は設けていません。若干名の募集なので、ご活躍いただける方に、募集枠から数名確保するよう考えています。申込みは 335 件ありました。

記者 市の この前のABCの一件はホームページに掲載されていたが、その後進展はあるか。  
ホームページの内容が現時点での総括で、市の対応として考えていただければと思います。

記者 市 それを受けてABCの反応はあったか。  
特に何もありません。

記者 市 あおはに会に対して、中で作ったものをどれだけ外に出しているかなど、現状の報告は求めているのか  
調査は行っていきます。あおはに、モンベルとは今までも定期的にコミュニケーションをとっていますが、指摘を受けて、よりしっかりコミュニケーションをとっていきたいと考えています。

記者 市 事実としてどういう実態があったのかを調べる必要があると思う。具体的な数字や内容の報告は求めているか。  
はい。詳細は調べて報告するように依頼しています。こちらも報告を受けてからみなさんに報告すべきものはご報告します。

記者 市 国とすり合わせをして、8割レストランで使ってたらいとか基準を設けるべきではないか。  
国は8割、7割といった基準などの見解は出さないとします。公園内の弁益事業が基本であり公園法の解釈から明らかに誰が見ても逸脱している状況は認めるわけにいかない。何割という言い方をするかは別として、あらためてきちんと、先方に伝えていきたいと考えています。

記者 市 この手の話は、何らかの意図をもった人が情報を流しているわけだが、多分この問題以外にもあるかもしれない。あおはにとモンベルの共同体に対しては、もう少しきちんと指導をしていくべきでなかいか。  
指定管理としてはしっかりやっているといると思うが、課題はゼロではないかもしれない。そこは市としても、指定管理に対して、よりよい形になるように言っていきたいと考えます。

記者 市 実態調査の結果等を議会に報告はするか。  
議会の求めに応じて対応していきます。

記者 市 参院選の投票時間の延長は実施するか。  
投票所は課題ではあるが、実際の投票のシステムにおいてミスがないように実施した上で、投票率の向上や関心を持っていただけるように、今後の課題として対応していきたいと考えています。